

2023 5

いまを照らす希望の像×24

# 「祈り」のかたち

# 月刊美術

No.572

Since 1975



印高 前島秀章

**藤田 潤 ガラス新作展 —いのちの輝き—**

5月17日～22日 ●高島屋日本橋店 本館6階 美術画廊 ☎03(3211)4111

1951年生まれ。学習院大学文学部哲学科卒業。父・藤田喬平の技法、精神を受け継ぎながら、現在ではヴェネツィアと日本に制作の拠点を置いて作品を制作。風・雲・水といった自然界の気韻や生命の尊さをテーマに、独自のガラス表現を展開する。近年は野菜や果物シリーズを新境地を開拓。



藤田潤 火の器 ガラス

**光風会選抜展**

5月4日～10日 ●上野・東京都美術館 地下3階ギャラリーB ☎03(3823)6921

百年以上の歴史を誇る光風会のメンバーによる選抜展。次世代の担い手である16名が参加し、100号前後の新作を披露する。松坂屋上野店の会場では、「光」をテーマとした小品を展示予定(4/19～25)。出品作家は、児島新太郎、田所雅子、茶谷雄司、野口俊介、結城唯善ほか。



福本弥生 time on the table 油彩

**トム・クリストファー展**

5月13日～6月11日 ●銀座・ギャラリーためなが ☎03(3573)5368

1952年アメリカ・ハリウッド生まれ。現代アメリカ画壇の旗手の6年ぶりの個展。NYを見つめ、摩天楼、活気ある都市と人々を描いた鮮やかな色調と躍動感あふれる絵画のほか、ペイントを施したスニーカーなど描き下ろしの新作約40点を展覧。大阪店でも同時期(5月20日～6月11日)に開催。



トム・クリストファー How About We Just Hand Out And Not Read アクリル・キャンバス

**陶山充展**

5月10日～22日 ●銀座・日動画廊 ☎03(3571)2553

1958年福岡県生まれ。沖縄・西表島にアトリエを構え、大自然と向き合いながら貝殻や花を描く。今回は2016年にパリ・ノートルダム寺院取材し、細部まで丁寧に描き込むことで火災に見舞われる前の姿を思い起こさせる30号の作品など、約50点の新作を。



陶山充 ノートルダム大聖堂 アクリル

**麻生三郎展 三軒茶屋の頃、そしてベン・シャーン**

4月22日～6月18日 ●世田谷美術館 ☎050(5541)8600(F)

現代の人間像を鋭く見つめた画家麻生三郎(1913～2000)は、戦後世田谷区にアトリエを構え《ひとり》や《赤い空》などの代表作を生んだ。その後、安保闘争やベトナム戦争に向き合う一方、虫や小鳥などにも澄んだまなざしを向けた。本展では、油彩、素描、約110点のほか、野間宏ら文学者たちとの交流を示す挿絵や装丁で、創作の軌跡をたどる。麻生が惹かれたベン・シャーン(1898～1969)の版画集『リルケ「マルテの手記」より 一行の詩のためには…』全24点を含む麻生旧蔵の作品群も紹介。一般1200円ほか。

▶招待券プレゼント



麻生三郎 三軒茶屋 1959年 神奈川県立近代美術館蔵

**開館20周年記念展 ジョルジュ・ルオー かたち、色、ハーモニー**

開催中～6月25日 ●パナソニック汐留美術館 ☎050(5541)8600(F)

ジョルジュ・ルオー(1871～1958)は宗教的テーマや、晩年の輝くような色彩で描かれた油彩、デフォルメされた親しみやすい人物像で知られる。本展は、ルオーが自身の芸術を語るのに繰り返し用いた「かたち、色、ハーモニー」をキーワードに、影響を受けた同時代の芸術や社会の動向、二つの大戦との関係にも触れながら、ルオーの装飾的な造形の魅力に迫る。フランスや国内の美術館より、晩年の傑作《かわいい魔術使いの女》、手紙や詩など、本邦初公開作品を含む約70点が並ぶ。一般1200円ほか。

▶招待券プレゼント



左 ジョルジュ・ルオー 二人組(二兄弟) 1948年 ポンピドゥー・センター、パリ/国立近代美術館蔵 Photo © Centre Pompidou, MNAM-CCI, Dist. RMN-Grand Palais / Christian Bahier / Philippe Migeat / distributed by AMF  
右 ジョルジュ・ルオー 深き淵より 1946年 ポンピドゥー・センター、パリ/国立近代美術館蔵 Photo © Centre Pompidou, MNAM-CCI, Dist. RMN-Grand Palais / image Centre Pompidou, MNAM-CCI / distributed by AMF

**襲名記念 千家十職 十八代 永樂善五郎展**

5月10日～15日 ●日本橋三越本店 本館6階 美術特選画廊 ☎03(3241)3311

千家十職の一つ「土風炉・焼物師」を務める永樂家。十八代の襲名記念展となる今展では、金襴手、色絵、交趾のほか独自の標釉、鶯釉、黒焼メなど多彩な技法による鮮やかな茶陶作品を展覧。



永樂善五郎 標釉松画茶碗

**西久松吉雄展 —地の恵み**

4月25日～30日 ●京都・ギャラリーヒルゲート ☎075(231)3702

1952年京都市生まれ。79年京都市立芸術大学大学院修了。2020年京都府文化賞功労賞。現在、創画会常務理事、成安造形大学客員教授、浜田市立石正美術館館長。京野菜をモチーフとしたシリーズ作品10余点と銀杏樹を描いた《樹霊》など、24点を展示予定。

西久松吉雄 野菜曼陀羅図—胎蔵界



**生誕120年 大沢昌助展**

4月29日～6月18日 ●練馬区立美術館 ☎03(3577)1821

大沢昌助(1903～97)は戦前、戦後の社会背景を見据えつつ、モダン、シンプル、自由で軽やかな独自のスタイルを貫いた昭和を象徴する美術家。最初期から晩年に至る100点以上もの作品を所蔵する練馬区立美術館は、1991年の回顧展を皮切りにその芸術を紹介してきた。本展では作画の原点であるスケッチ類や父で建築家の三之助作品を含む新収蔵品、調査の中で新たに発見された作品、ことに1980～90年代にかけての晩年の抽象画を含めた約120点で、大沢芸術の豊かさを多面的に紹介する。一般1000円ほか。

▶招待券プレゼント



左 大沢昌助 笛を吹く童女 1978年 個人蔵  
右 大沢昌助 変わっていく繰り返し 1981年頃 練馬区立美術館蔵

**没後40年 朝井閑右衛門展**

4月22日～6月18日 ●横須賀美術館 ☎046(845)1211

洋画家朝井閑右衛門(1901～83)は、1936年に《丘の上》で文部省美術展覧会の文部大臣賞を受賞。その後中国へ赴き、諧謔味のある水墨画や風景画を手掛ける。戦後は、横須賀市にアトリエを構え、厚塗りのガラス台鉢や電線風景などの連作、詩人たちの肖像、ドン・キホーテなど空想の物語に遊ぶ人物や華麗な薔薇を生み出し、独創的な作品を描き続けた。本展は油彩、水墨画や素描に加え、コレクションの骨董や人形、自筆の手帳、制作のための写真など約200点を紹介し、新たな魅力を検証する。一般1300円ほか。

▶招待券プレゼント



朝井閑右衛門 丘の上 1936年 神奈川県立近代美術館蔵

**常設展**

11:00-18:00  
土・日・祝日休廊

彩鳳堂画廊  
Saihodo Gallery

〒104-0031  
東京都中央区京橋3-3-10 第1下村ビル 2階  
tel. 03-6262-0985 fax. 03-6214-0418  
e-mail saihodo@mba.nifty.ne.jp  
http://saihodo.com/

